

福島市産業系施設
個別計画

令和元年 1 1 月

福 島 市

目 次

第1章	福島市産業系施設 個別計画策定の背景、目的と位置づけ	
	(1) 策定の背景と目的	P 1
	(2) 公共施設等総合管理計画と本個別計画との関係	P 1
第2章	本個別計画の対象施設、計画期間	
	(1) 対象施設の一覧表	P 2
	(2) 計画期間	P 2
	(3) 対策の方針とフォローアップ	P 2
第3章	産業系施設を取り巻く現状と課題	
	(1) 産業系施設の現状について	P 3
	(2) 建物の老朽化の進行について	P 7
第4章	対策の優先順位と施設評価の考え方	
	(1) 優先順位の考え方について	P 8
	(2) 施設評価について	P 8
第5章	個別施設の状態等（基礎調査等）	
	(1) 老朽度、劣化度等	P 10
	(2) 利用状況等	P 12
	(3) 施設の利用形態／集客区域と代替施設の検討	P 13
	(4) 市民・利用者等の施設需要	P 14
第6章	対策内容と実施時期（実施計画）	
	(1) 総合評価の概要と保全に関する基本方針	P 17
	(2) 再配置等方針	P 18
	(3) 対策内容と実施時期（実施計画）	P 19

第1章 福島市産業系施設 個別計画策定の背景、目的と位置づけ

(1) 策定の背景と目的

全国的に公共施設等の老朽化対策が大きな課題となっており、福島市も公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するため、平成29年2月に「福島市公共施設等総合管理計画」を策定しました。

本個別計画は、福島市公共施設等総合管理計画の実行性を確保するため、今後8年間の具体的な事業計画となります。

なお、本市の農業・農村の振興を図る基本的な指針を体系的にとりまとめた、「福島市農業・農村振興計画」、各施設方針にも沿ったものであり、公共施設の老朽化対策のみならず、地域の現状や社会経済情勢等も踏まえながら、労働環境の充実・勤労者福祉体制にも意を用い策定したものです。本個別計画による産業系施設の最適化を通じ、本市計画の政策目標である「産業・まちに活力ふくしま」の実現を目指していきます。

(2) 公共施設等総合管理計画と本個別計画との関係

本個別計画は、福島市公共施設等総合管理計画の基本的な方針や考え方を踏まえ策定したものであり、今後具体的かつ計画的に対策（各事業の実施）をしていくための行動計画となるものです。

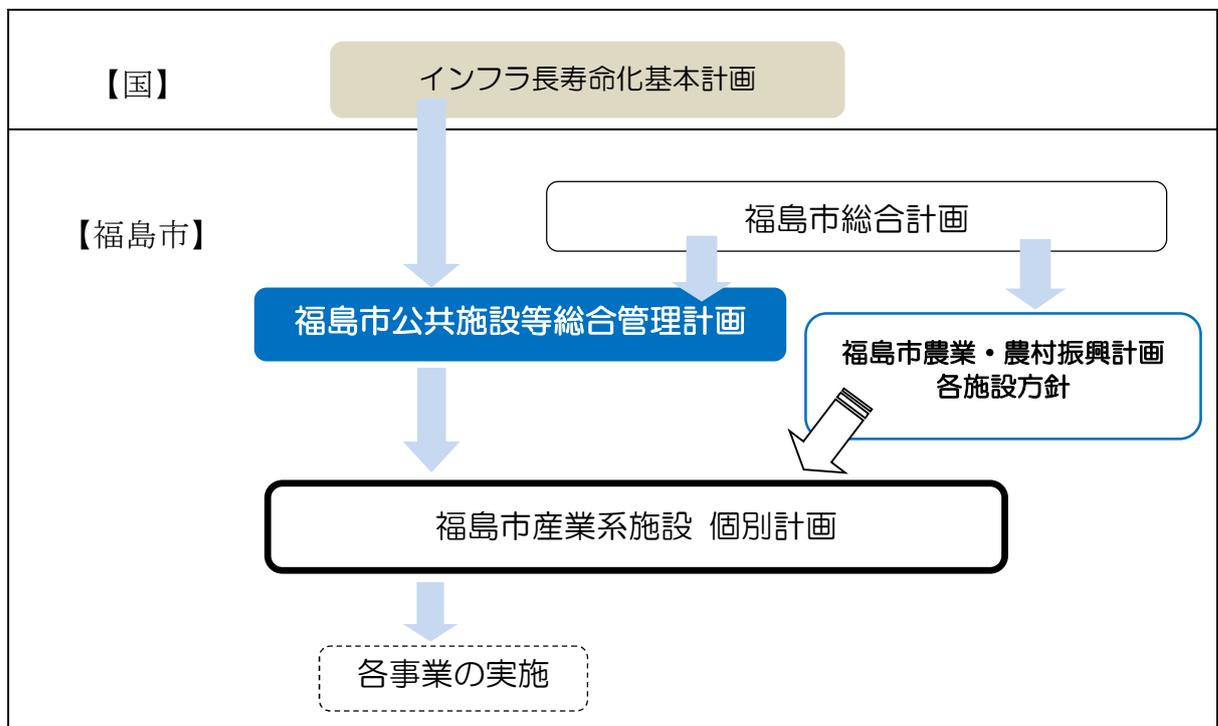


図1 公共施設等総合管理計画と本個別計画との関係

第2章 本個別計画の対象施設、計画期間

(1) 対象施設の一覧表

ここでは、産業系施設10施設について対象としています。

No.	施設名称	No.	施設名称
1	農村マニユファクチャー公園【四季の里】	6	職業訓練技能センター
2	旧吾妻高原牧場	7	サンスカイツちゆ
3	わいわい市民農園（休憩施設）	8	荒井地区浪江仮設事務所
4	農道離着陸場【スカイパーク】（管理棟）	9	松川地区飯舘仮設工場
5	サンライフ福島	10	茂庭ふるさと館

(2) 計画期間 令和元年度～令和8年度

本個別計画は、福島市公共施設等総合管理計画の計画期間に合わせ、今後8年間の施設の行動計画を策定するものです。

(3) 対策の方針とフォローアップ

本個別計画は、福島市公共施設等総合管理計画の実行性を確保するため、この先8年間の年度ごとの行動計画として策定したものであり、本個別計画により具体的な対策の実現を図ります。

また、本個別計画の進捗状況等について評価し、財政状況や公共施設等のライフサイクルコスト等を踏まえ、必要に応じ本個別計画を見直すこととします。

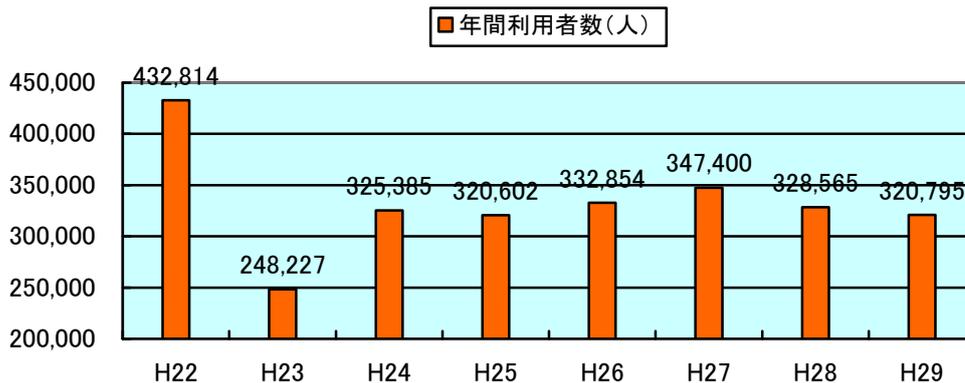
第3章 産業系施設を取り巻く現状と課題

(1) 産業系施設の現状について

① 農村マニファクチャー公園【四季の里】

開園から24年が経過し、老朽化による建物外壁の劣化や雨漏り等が増加しています。

また、本施設にはテナントが5棟入居していることや、民間等のイベントが開催されるケースが多いことを踏まえると、建物劣化や設備等の不具合は、それらの営業活動に支障をきたすリスクが高く、利用者の利便性にも影響があることから、計画的かつ速やかな修繕をする必要があります。



② 旧吾妻高原牧場

当該施設は、利用農家の減少及び原発事故による放牧の自粛・牧草地の汚染等により平成26年3月に廃止した施設です。

建物については、築50年を経過しているものがほとんどで、老朽化が著しく進んでおり、再活用は困難な状況です。

通行量は少ないものの道路沿いの施設も多く、今後、老朽化に伴う施設の倒壊などの危険も想定されます。

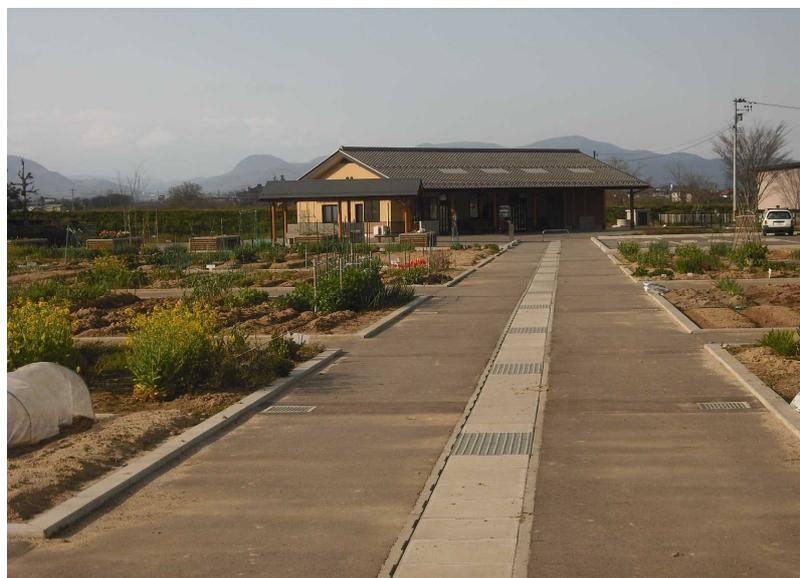
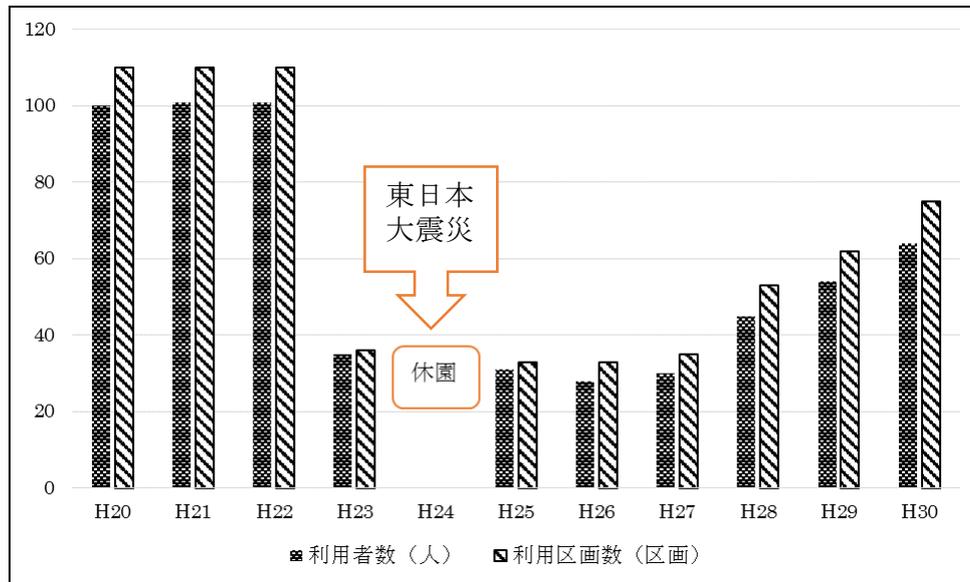


【看視舎】

③わいわい市民農園

市民農園は休憩施設のほか、農園（一般用区画 106 区画、車いす用区画 5 区画、体験農園場 1 区画）、駐車場等のある施設です。

休憩施設の建物機能については、築 11 年で大規模な改修・修繕は行われていません。震災前、ほぼ 100%であった利用率は、震災による休園後の平成 25 年には約 30%まで落ち込みましたが、年々利用者が増加し、平成 30 年度は約 65%と回復傾向にあります。



【休憩施設】

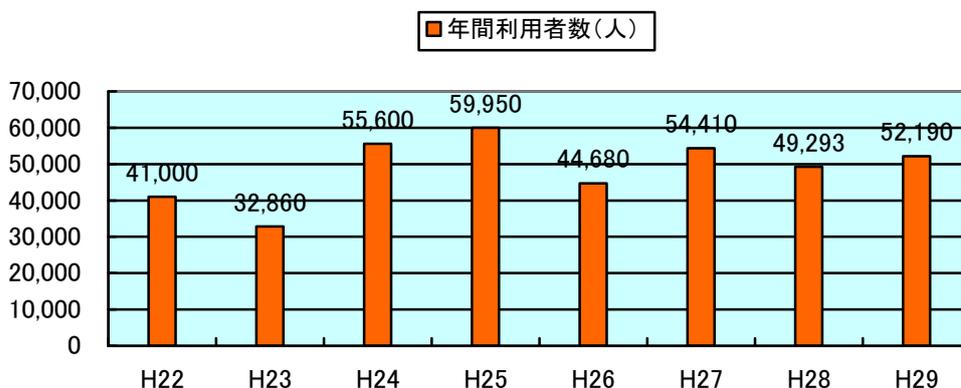
④農道離着陸場【スカイパーク】

農産物の空輸を通じた農業の振興等広く産業の振興を図り、地域の活性化と市民の福祉向上に寄与することを目的とし、平成10年に開場しました。

建物機能については、築21年と老朽化が進み、外部床タイル等に劣化が見受けられます。

最も老朽化が進んでいる個所については、施設の大部分を占める滑走路であり、震災の影響で多くの亀裂がみられます。毎年予算を計上し、計画的に補修を進めているところです。

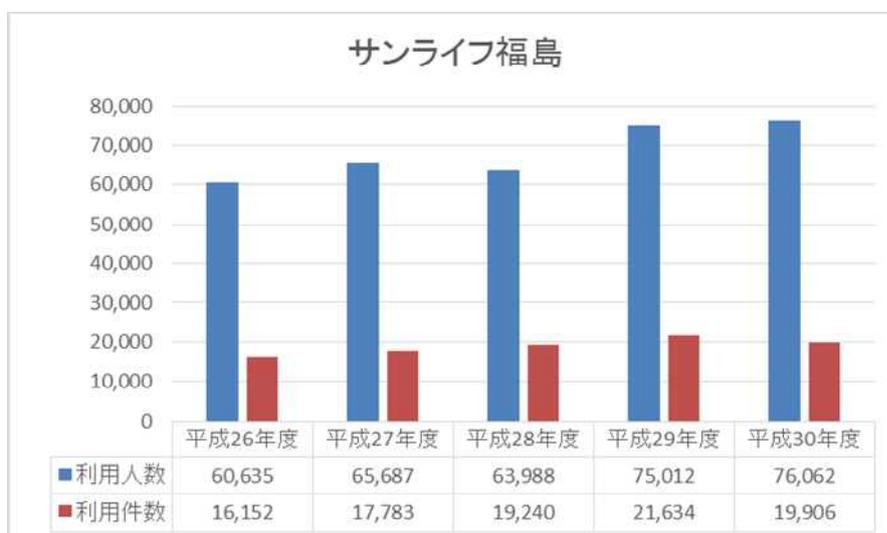
施設機能については、スカイスポーツと農業振興を融合した航空イベント開催、防災・災害対策、自動車試乗会など多面的活用を推進し、地域の活性化に寄与しています。



⑤サンライフ福島

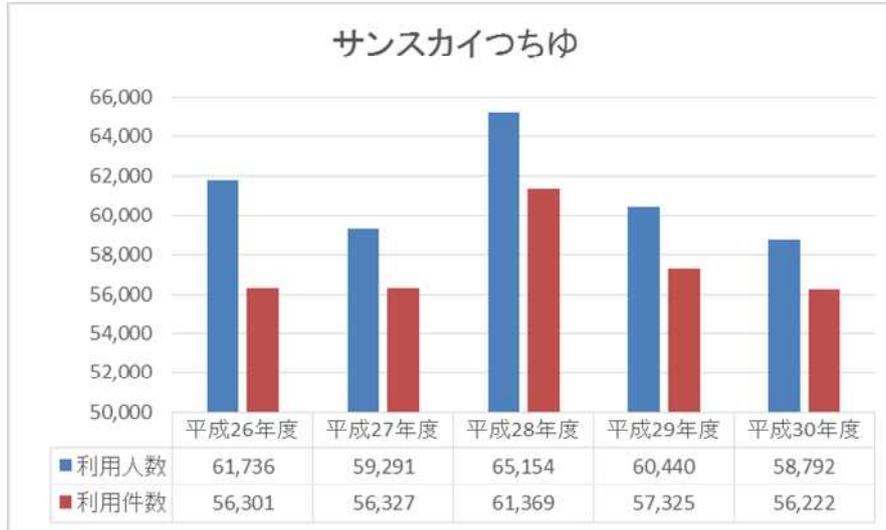
当該施設は、市民の集会その他催物の利便を図り、地域の活性化と福祉の増進に寄与する施設です。建物機能については、築34年と老朽化が進んでおり、毎年小規模修繕を積み重ねています。現在、空調設備が度々停止するなど大規模な改修が必要な状況です。

施設機能については、福島体育館が工事中であった為、体育室やトレーニングルームの利用が増加しており、施設内に100台分の駐車場があるため市民の利便性も高い施設です。企業の研修等会議室の利用も増加傾向にあり稼働率の上昇により収入額も増加している為サービスコストは微減しています。



⑥サンスカイつちゆ

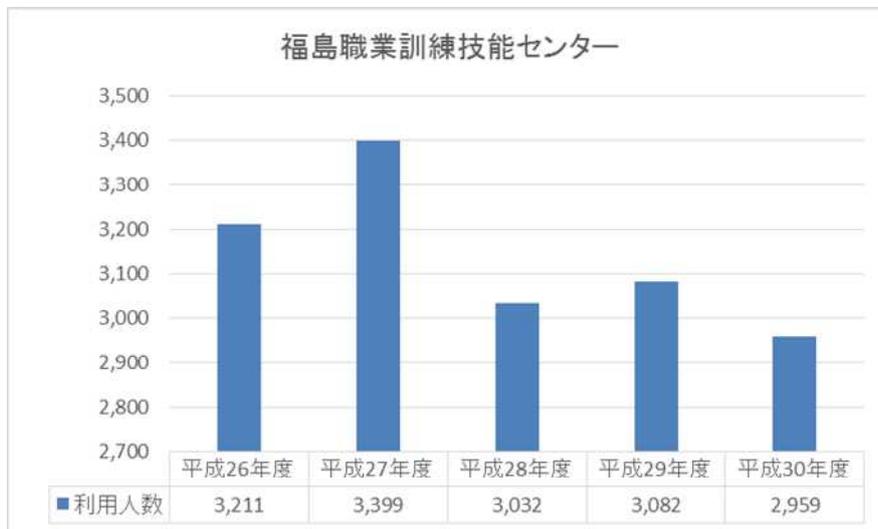
浴場や研修室を有する複合施設であったが、機能は平成30年度に廃止済みです。同年度、同地区内に市営の共同浴場が開場しています。



⑦職業訓練技能センター

工業等の技能労働者の訓練施設であり、築49年と老朽化が進んでいますが利用者が少なく、大規模な修繕は行っておりません。

訓練生が減少傾向にあるため、稼働率の低下が見られますが、専門性の高い施設であるため県内から訓練生が集まっており、技術の伝承には必要な施設です。



⑧～⑨松川地区飯館仮設工場、荒井地区浪江仮設事業所

東日本大震災に伴う被災事業者の仮設作業所として供するため建設されました。軽量鉄骨造の建物で、被災事業者が廃業又は当該施設から移転した後は、廃止となります。



【松川地区飯館仮設工場】



【荒井地区浪江仮設事務所】

⑩茂庭ふるさと館

茂庭地区の農林業の振興、雇用の創出及び地域の活性化を図るために平成18年に建設されました。外壁には木材が使用されており、経年劣化が進行しています。また、設備についても10年以上経過していることから修繕が必要となってきています。



【茂庭ふるさと館】

(2) 建物の老朽化の進行について

築50年の旧吾妻高原牧場、職業訓練技能センターをはじめ、サンライフ福島が築34年等多くの建物で老朽化が著しく進行している状況です。そのため、各施設のあり方等も検討しながら、早期に老朽化対策を実施する必要があります。

第4章 対策の優先順位と施設評価の考え方

(1) 優先順位の考え方について

産業系施設には機能の重複した施設や老朽化が進む施設があることから、農業の振興や産業の活性化等の視点も踏まえた施設の効果的な配置が求められます。これらの事情や、次の(2)による施設評価の結果を踏まえ、対策の優先順位を決定します。

(2) 施設評価について

施設評価は、施設の基礎的情報に基づき、「建物性能評価」と「施設機能評価」の2軸から客観的な評価（一次評価）を行い、施設の方針や対策の優先度判定をポートフォリオ分析により実施します。ポートフォリオ分析の建物性能評価において、3又は2になったものを中心に、定性的な評価（二次評価）として、一次評価とは異なる評価指標（定性的要素を含む）を用いて評価の補正を行うほか、一次評価結果を補完することで、施設の方針の選択肢の絞り込みを行います。最後に、市民や利用者等の需要も踏まえ、政策的な評価（総合評価）を行い、施設の方針を決定します。

①一次評価

次のア)、イ)のとおり、建物の財物的価値・品質面の評価（建物性能評価）と、サービス供給面の評価（施設機能評価）に分けて簡易評価を行い、ウ)のポートフォリオ分析により施設の方向性や対策の優先順位を判定します。

ア) 建物性能評価

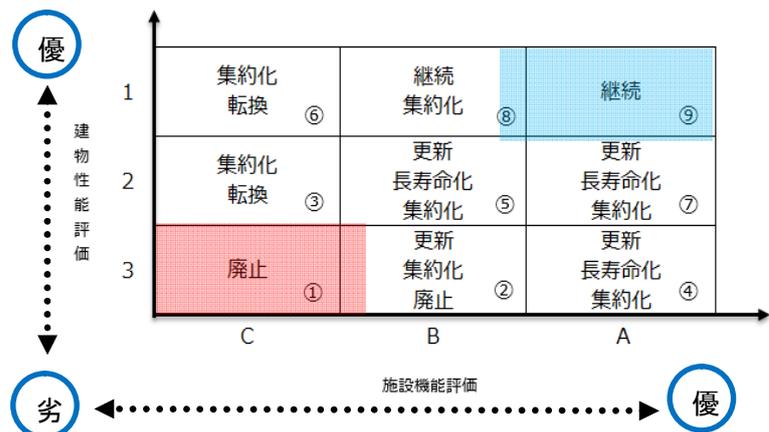
建物の「①老朽化比率」、「②劣化状況」、「③耐震対応」、「④緊急度合」、「⑤避難所指定」、「⑥設置義務」の6つの評価指標の平均評定値を用いて、建物（品質）性能を評価します。

イ) 施設機能評価

施設の「①稼働率」、「②税負担割合」、「③サービス当たりコスト」、「④更新費用割合」、「⑤近隣類似施設」、「⑥交通事情」の6つの評価指標を用いて、施設機能（サービス）を評価します。

ウ) ポートフォリオ分析

「建物性能評価」が1から3に、「施設機能評価」がAからCに向かうほど対策の優先度が高くなります。（※下図のマル数字は、対策の優先度を簡易的に表示）



②二次評価

一次評価結果を踏まえ、さらに利用形態や集客区域に詳細な検討を加えることにより、「施設機能の重複性」を勘案して、施設の方針の選択肢を絞り込みます。

③市民・利用者等の需要

これまでに施設利用者から寄せられた様々なアンケートによる意見のほか、平成 28 年 10 月に実施した福島市公共施設等総合管理計画アンケート調査をもとに施設を利用したことがない方々の意見もとりにいれながら、本施設の方針を決定します。

④総合評価

一次評価、二次評価の結果を踏まえ、さらに次の視点から政策的判断を加え、総合的な評価を実施し、施設の再配置等の方針を決定します。

ア) 実現可能性 イ) 立地・拠点性 ウ) PR性 エ) 代替性 オ) 有効性

第5章 個別施設の状態等（基礎調査等）

（1）老朽度、劣化度等（一次評価項目：建物性能）

①老朽化比率・劣化状況・耐震対応・緊急度合

No.	施設名	主たる建物構造	建築年度	年度西暦	経過年	一次評価（建物性能評価）			
						①老朽化比率	②劣化状況	③耐震対応	④緊急度合
1	農村マニファクチャー公園 （四季の里）	鉄骨造	H7	1995	23	56.9%	あり（緊急、重大な毀損なし）	対応済み	なし
2	旧吾妻高原牧場	鉄骨造	S43	1968	50	100.0%	あり（緊急、重大な毀損のいずれか）	未対応	あり
3	わいわい市民農園	木造	H19	2007	11	67.0%	なし	対応済み	なし
4	農道離着陸場（スカイパーク）	鉄筋 コンクリート造	H9	1997	21	44.7%	あり（緊急、重大な毀損のいずれか）	対応済み	なし
5	サンライフ福島	鉄筋 コンクリート造	S58	1983	35	70.0%	あり（緊急、重大な毀損なし）	対応済み	なし
6	職業訓練技能センター	鉄骨造	S43	1968	50	100.0%	あり（緊急、重大な毀損なし）	未対応	あり
7	サンスカイつちゆ	鉄筋 コンクリート造	S60	1985	33	66.0%	あり（緊急、重大な毀損のいずれか）	対応済み	なし
8	荒井地区浪江仮設事業所	鉄骨造	H24	2012	6	10.8%	なし	対応済み	なし
9	松川地区飯館仮設工場	鉄骨造	H23	2011	7	13.5%	なし	対応済み	なし
10	茂庭ふるさと館	木造	H18	2006	12	42.0%	なし	対応済み	なし

（施設情報は平成30年4月1日現在）

※注 ①：表中の「①老朽化比率」は、「減価償却累計額/取得価額」にて算出。

②：表中の「②劣化状況」は、点検・診断等の結果をもとに、「なし」・「あり（緊急、重大な毀損なし）」・「あり（緊急、重大な毀損のいずれか）」の3区分で表記しています。

③：表中の「③耐震対応」は、新耐震基準への適合（対応）の有無を「対応済み」・「未対応・対応予定」の2区分で表記しています。

なお、「対応済み」には、新耐震基準の施設など、耐震化が不要な施設も含まれます。

④：表中の「④緊急度合」は、緊急性を分類して評価するもので、法令等による建物性能改善の要請の有無を、「あり」・「なし」の2区分で表記しています。

②避難所指定の状況

ア) 優先的開設避難所 なし

③設置義務の判定（※施設類型別での簡易的判定法による）

判定	判定の考え方	施設分類（※1）	判定結果
I	法令等により設置が義務付けられている施設	学校教育系施設 保健・福祉系施設 行政系施設 供給処理施設 その他施設	
II	法令等の義務付けはないが、社会インフラとして生活に欠かせない施設	産業系施設 子育て支援系施設 住宅系施設	○
III	市が独自に住民等に公共サービスの提供が必要と考えて設置している施設	市民文化系施設 社会教育系施設 スポーツ・レクリエーション系施設 公園施設	

※注1 表中の「施設分類」は、福島市公共施設等総合管理計画における施設分類をいいます。

(2) 利用状況等 (一次評価項目：施設機能) 【平成29年度実績】

No.	施設名	一次評価(施設機能評価)					
		①稼働率	②税負担割合	③サービス当たりコスト(前年度比)	④更新費用割合	⑤近隣類似施設	⑥交通事情
1	農村マニュファクチャー公園(四季の里)	0.0%	77.0%	-0.1%	2.7	無し	I
2	旧吾妻高原牧場	0.0%	95.8%	-	0.0	無し	III
3	わいわい市民農園	100.0%	67.3%	-10.4%	0.7	無し	I
4	農道離着陸場(スカイパーク)	0.0%	69.4%	-11.4%	3.9	無し	I
5	サンライフ福島	43.4%	77.7%	-1.5%	3.7	無し	II
6	職業訓練技能センター	41.2%	26.0%	-0.1%	13.1	無し	I
7	サンスカイつちゆ	13.3%	60.3%	5.3%	26.4	有り	II
8	荒井地区浪江仮設事業所	0.0%	99.4%	0.0%	0.0	無し	I
9	松川地区飯館仮設工場	0.0%	99.4%	0.0%	0.0	無し	II
10	茂庭ふるさと館	0.0%	61.1%	1.4%	1.1	無し	I

※表中の「①稼働率」は、「年間利用時間数/年間利用可能時間」にて算出。住民からのニーズを数値化したものと捉え評価する指標です。

※表中の「②税負担割合」は、維持管理費や人件費等の施設に掛かる費用合計額に占める税負担額の割合であり、受益者負担の衡平性を評価する指標です。

※表中の「③サービス当たりコスト」は、利用者1人あたりのサービス提供にかかる費用(単位費用)が、前年度と比較してどのように改善されたのかを見ることで、施設管理の効率性を評価する指標です。

※表中の「④更新費用割合」は、建築コストに対し、維持管理コストをどの程度負担してきたのか、維持管理コストの潜在性を示す指標で、3.0~5.0(3~5倍)を中位としています。

※表中の「⑤近隣類似施設」は、最小生活圈域における市の行政サービスの重複性や、市施設による代替可能性を評価する指標です。

※表中の「⑥交通事情」は、駐車スペースの有無や交通機関からの距離により、簡易的にマトリクス分析(判定区分はIII・II・Iとし、Iが最もアクセス性が良好)により評価する指標です。

(3) 施設の利用形態/集客区域と代替施設の検討 (二次評価項目)

No.	施設名	一次評価結果	利用形態/集客区域	代替検討施設の有無	代替施設
1	農村マニユファクチャー公園四季の里	1A	公園/県内外	なし	—
2	旧吾妻高原牧場	3B	—	—	—
3	わいわい市民農園	1A	農業体験施設/福島市内	なし	—
4	ふくしまスカイパーク	1B	農道離着陸場/全国	なし	—
5	サンライフ福島	2A	貸館施設/県北地区	あり	北信学習センター
6	職業訓練技能センター	3A	研修施設/福島県内	なし	—
7	サンスカイつちゆ	1C	—	—	—
8	松川地区飯館仮設工場	1A	被災事業者用仮設施設/なし	なし	—
9	荒井地区浪江仮設事業所	1B	被災事業者用仮設施設/なし	なし	—
10	茂庭ふるさと館	1A	産業振興施設/福島市周辺施設	なし	—

※表中の「代替施設検討の有無」については、各施設の集客区域内における民間施設を含めた類似施設の有無について一次評価をより詳細に検討したものです。

(4) 市民・利用者等の施設需要

①総合管理計画アンケート調査

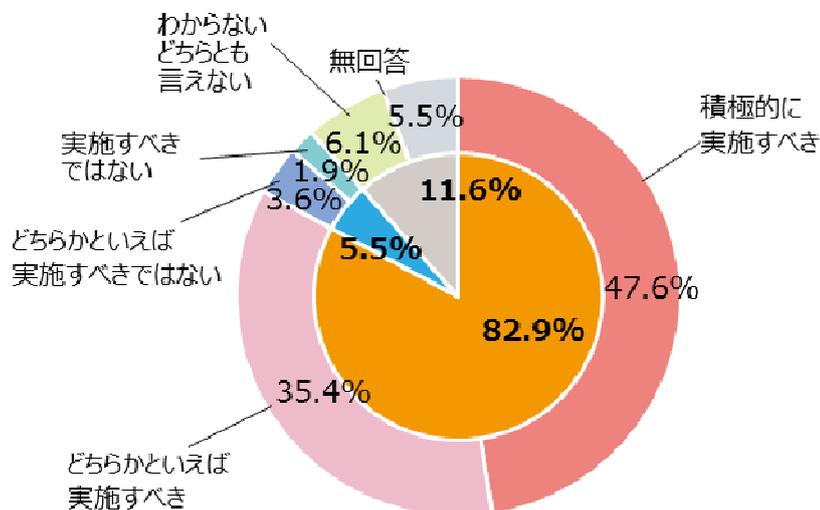
施設管理方針については、平成28年8月に実施した、福島市公共施設等総合管理計画策定の際のアンケート調査において施設管理方針については「重複する機能を整理しながら統廃合や複合化する」が82.9%あり、「計画的に修繕し、できるだけ長期間使用する」という意見が60%を超えています。

本類型の施設は集客範囲が市内に留まらず、農村マニユファクチャー公園など民間も含めて代替性がない施設が多く見られます。

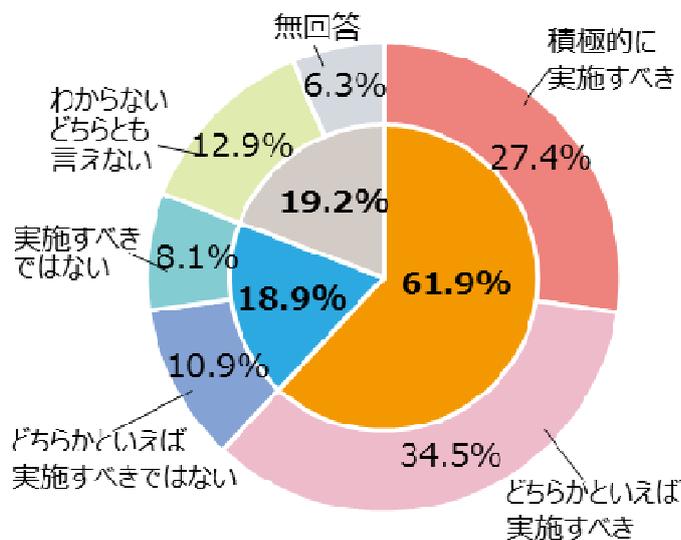
◎公共施設等総合管理計画アンケート調査結果報告書（抜粋）

2.7 公共施設の配置や規模の見直し手法について

①重複する機能を整理しながら統廃合や複合化をする。



②計画的に修繕し、できるだけ長期間使用する



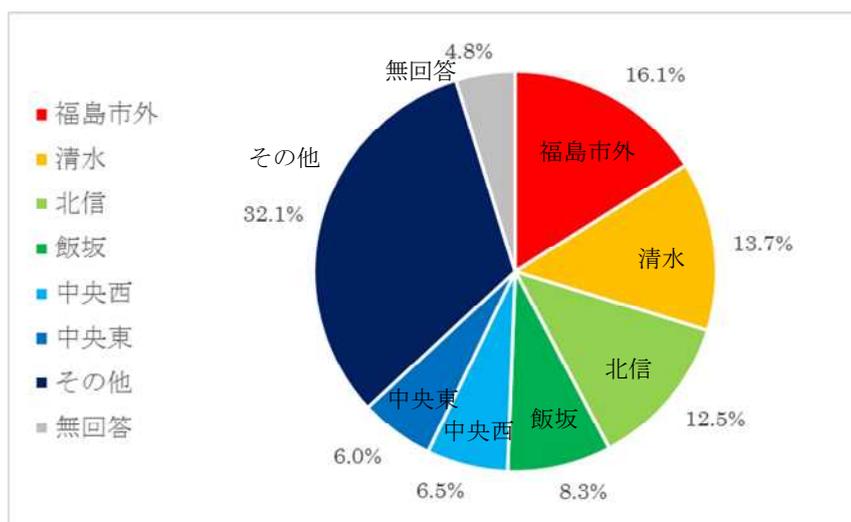
②各施設利用者からの意見について

対象施設：

No.	施設名	各施設アンケート回答数
1	農村マニユファクチャー公園(四季の里)	14件
3	わいわい市民農園	37件
5	サンライフ福島	85件
6	職業訓練技能センター	25件
10	茂庭ふるさと館	7件
合 計		168件

募集期間：令和元年8月1日～8月20日

今回アンケートに回答をいただいた方は、「福島市以外に居住の方」が16.1%、次いで「清水」、「北信」、「飯坂」地区が多く、「施設利用頻度」については週に1回以上が48.8%という結果となりました。アンケート結果詳細は次のとおりです。



I 施設の満足度

「おおむね満足している」とする意見が53.6%ありました。(90件)。不満とする意見が3.6%ありました。(6件)

i 主な満足している理由

- ・設備や備品等が充実している27.7% (66件)
- ・使用料が安い(または無料)22.7% (54件)

ii 主な満足していない理由

- ・建物が古い・狭い26.8% (15件)
- ・設備や備品等が充実していない23.2% (13件)

Ⅱ重要と思う施設機能

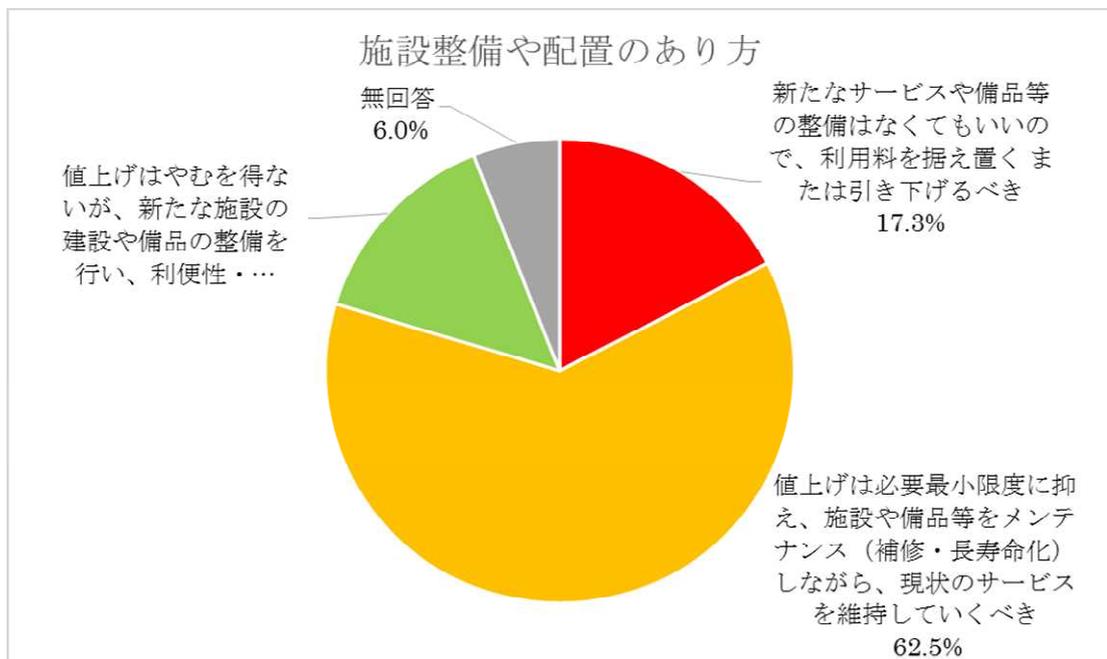
「くつろぎの場の提供」とする意見が26.8%（66件）、「運動や健康づくりの機械の提供」とする意見が26.0%（64件）ありました。

Ⅲ施設に求める最も重要なサービスについて

「利用の自由度（いつでも・誰でも・多目的に使える等）」とする意見が32.7%（55件）、「充実した設備・備え付け備品」とする意見が28.0%（47件）ありました。

Ⅳ施設の改修・建て替えや利用料のあり方について

「値上げは必要最小限度に抑え、施設や備品等をメンテナンス（補修・長寿命化）しながら、現状のサービスを維持していくべき」とする意見が62.5%（105件）ありました。



第6章 対策内容と実施時期（実施計画）

（1）総合評価の概要と保全に関する基本方針

①総合評価の概要

一次評価結果をもとに、二次評価においては、「利用形態/集客区域」の考察に加え、「施設機能の重複性」の視点から施設のあり方・機能配置について検討（対策の優先順位を含む）しました。

総合評価においては、観光や各施策における各施設の必要性の観点を加えることにより周辺地域のサービス低下を招かないよう検討しました。

また、公共施設等総合管理計画における「産業系施設」の基本方針である「計画的な点検や改修等による予防保全に努め、施設の長寿命化を図る」ことを基本としながら、長寿命化に期待が出来ない既に老朽化した施設については、集約化を検討し、施設総量の縮減の方針も勘案しながら次の（2）の再配置方針を取りまとめました。

なお、今後の社会状況の変化に対応するため、本計画は見直しを図る場合があります。

②施設保全方針

「法定耐用年数」や「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」（昭和40年大蔵省令 第15号）に定める耐用年数を上回る期間での長期利用に努めるとともに、次の保全手法により適切な維持管理に努めます。

なお、建物の規模・構造等によりライフサイクルコストの縮減が見込まれるものとして、長寿命化を図る場合の目標使用年数は、70年以上とします。この場合において、「文化財」や「歴史的建造物」については、将来世代に確実に引き継げるよう積極的に長寿命化対策に取り組みながら、さらなる長期的保持に努めます。

【予防保全】・・・予防保全を実施することにより、市民サービスの維持や維持管理コストの縮減に効果が期待できるものであって、次の建物を対象に実施します。

- ①主たる建物の構造が木造以外の建築物
- ②昭和56年6月以降（新耐震基準）の建築物
- ③階数が2以上又は1棟の床面積が200㎡を超える建築物

【事後保全】・・・予防保全の対象とならない施設を対象に実施します。なお、この場合においても、市民サービスの著しい低下にならないよう、定期的な点検を実施し、適切な維持管理に努めます。

(2) 再配置等方針 (総合評価)

No.	施設名	再配置等方針	対策前		対策後		保全方針	
			耐用年数	面積 (㎡)	目標 使用年数	面積 (㎡)	予防	事後
1	農村マニファクチャー公園 【四季の里】	長寿命化	38年	3,818.93㎡	70年	3,818.93㎡	○	
2	旧吾妻高原牧場	廃止 (除却)	34年	1,452.33㎡	-	0.00㎡	-	-
3	わいわい市民農園 (休憩施設)	維持	15年	173.77㎡	25年	173.77㎡		○
4	農道離着陸場 【スカイパーク】 (管理棟)	長寿命化	50年	252.80㎡	70年	252.80㎡	○	
5	サンライフ福島	長寿命化	50年	1,441.34㎡	70年	1,441.34㎡	○	
6	職業訓練技能センター	集約化を今後検討	31年	599.89㎡	-	599.89㎡	-	-
7	サンスカイつつゆ	廃止 (除却)	50年	1,596.42㎡	-	0.00㎡	-	-
8	荒井地区浪江仮設事務所	廃止 (除却)	38年	505.55㎡	-	0.00㎡	-	-
9	松川地区飯館仮設工場	廃止 (除却)	38年	203.64㎡	-	0.00㎡	-	-
10	茂庭ふるさと館	維持	24年	232.18㎡	34年	232.18㎡		○
合 計		面積 (㎡)	10,276.85㎡		6,518.91㎡			
		増減 (㎡)			-3,757.94㎡			

※注1 再配置方針については、将来的な施設方針であり、本計画上（令和8年度まで）で必ずしも実施時期を明記するものではなく、各個別計画との調整のうえ財源の確保及び、建物使用年数の残期間や施設現況を考慮して実施するもの。

(3) 対策内容と実施時期(実施計画)

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年度	更新等将来費用 (※注1) (千円)	1次評価	2次評価	総合評価 (再配置等方針)	計画期間								合計	対策後延床面積 (㎡)	
									令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			令和8年度
1	農村マニファクチャー公園【四季の里】	3,818.93	H6	2,482,305	1A	継続	長寿命化	対策内容	改修	改修	改修	改修						
								対策費用(千円)	17,301	44,000	18,600	10,000					89,901	3,818.93
								更新等将来費用増減(千円)									0	
								延床面積増減(㎡)	0.00	0.00	0.00	0.00					0.00	
2	旧吾妻高原牧場	1,452.33	S43	944,015	3B	廃止	廃止(除却)	対策内容			除却	除却	除却	除却				
								対策費用(千円)			17,176	13,224	16,140	11,553			58,093	0.00
								更新等将来費用増減(千円)			▲ 279,110	▲ 214,890	▲ 262,275	▲ 187,740			▲ 944,015	
								延床面積増減(㎡)			▲ 429.40	▲ 330.60	▲ 403.50	▲ 288.83			▲ 1,452.33	
3	わいわい市民農園(休憩施設)	173.77	H20	112,951	1A	継続	維持	対策内容										
								対策費用(千円)									0	173.77
								更新等将来費用増減(千円)									0	
								延床面積増減(㎡)									0.00	
4	農道離着陸場【スカイパーク】(管理棟)	252.80	H9	164,320	1B	継続	長寿命化	対策内容										
								対策費用(千円)									0	252.80
								更新等将来費用増減(千円)									0	
								延床面積増減(㎡)									0.00	
5	サンライフ福島	1,441.34	S58	936,871	2A	長寿命化	長寿命化	対策内容										
								対策費用(千円)									0	1,441.34
								更新等将来費用増減(千円)									0	
								延床面積増減(㎡)									0.00	
6	職業訓練技能センター	599.89	S44	389,929	3A	更新集約化	集約化を今後検討	対策内容										
								対策費用(千円)									0	599.89
								更新等将来費用増減(千円)									0	
								延床面積増減(㎡)									0.00	
7	サンスカイつちゆ	1,596.42	S60	1,037,673	1C	廃止	廃止(除却)	対策内容		除却								
								対策費用(千円)		63,857							63,857	0.00
								更新等将来費用増減(千円)		▲ 1,037,673							▲ 1,037,673	
								延床面積増減(㎡)		▲ 1,596.42							▲ 1,596.42	

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年度	更新等将来費用 (※注1) (千円)	1次評価	2次評価	総合評価 (再配置等方針)	計画期間								合計	対策後延床面積 (㎡)				
									令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			令和8年度			
8	荒井地区浪江仮設事務所	505.55	H24	328,608	1A	継続	廃止(除却)	対策内容	除却												
								対策費用(千円)	0										0		
								更新等将来費用増減(千円)	▲ 328,608											▲ 328,608	
								延床面積増減(㎡)	▲ 505.55											▲ 505.55	
9	松川地区飯館仮設工場	203.64	H23	132,366	1B	継続集約化	廃止(除却)	対策内容											除却		
								対策費用(千円)												0	
								更新等将来費用増減(千円)												▲ 132,366	
								延床面積増減(㎡)												▲ 203.64	
10	茂庭ふるさと館	232.18	H18	150,917	1A	継続	維持	対策内容													
								対策費用(千円)												0	
								更新等将来費用増減(千円)												0	
								延床面積増減(㎡)												0.00	
対策費合計 (千円)									17,301	107,857	35,776	23,224	16,140	11,553	0	0	211,851				
更新等将来費用増減 (千円)									▲ 328,608	▲ 1,037,673	▲ 279,110	▲ 214,890	▲ 262,275	▲ 187,740	0	0	▲ 2,442,661				
各年度の維持管理・修繕費(※注2) (千円)									16,679	13,953	13,220	12,655	11,966	11,472	11,472	11,472	102,889				
延床面積増減 (㎡)									▲ 505.55	▲ 1,596.42	▲ 429.40	▲ 330.60	▲ 403.50	▲ 288.83	0.00	0.00	▲ 3,757.94				

※注1 「更新等将来費用」とは、今後40年間に於いて見込まれる建物の更新費及び大規模改修費になります。

※注2 「各年度の維持管理・修繕費」とは、平成27年度から平成29年度までの「地方財政状況調査表」に基づく、維持補修費の延床面積あたりの平均より算出したものです。

◆本計画期間(今後8年間)における維持管理・更新等に係る経費の見込み (単位:千円)

更新費及び大規模改修費			維持管理・修繕費			合計		
経費	左の財源内訳		経費	左の財源内訳		経費	左の財源内訳	
211,851	国・県	-	102,889	国・県	-	314,740	国・県	-
	起債	5,400		起債	-		起債	5,400
	その他	-		その他	8,231		その他	8,231
	一般財源	206,451		一般財源	94,658		一般財源	301,109